

勝って涙、負けて涙のリオオリンピック、連日熱戦が繰り広げられてきましたが、もう閉会です。4年後の東京をめざす選手の活躍をこれからも応援しましょう。現在会員登録数 2,053 人さま。次号は9月21日発行の予定です

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 72

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。9月17日（土）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。申込締切は9月5日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

● 「第33回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（月）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第30号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Tsuyoshi's Talk

『バンドガール!』 濱野京子/作 志村貴子/絵 偕成社 2016年8月
対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：小学5年生の沙良は、6年生の莉桜からバンドに入ってドラムを担当するように誘われる。練習場所の児童センターにはもう一つバンドがあって、リーダーは莉桜と音楽性の違いでけんかをした涼香だった。2つのバンドは発表会に向けてライバル意識を燃やしながらか練習し、両方のバンドの5年生同志は密かに仲良くなっていく。

T：見返しに「社会派ガールズバンド・ストーリー」とありますが、バンド活動という定番の物語を読み進めていくうちに、原発事故によって分断された近未来の東京が舞台であることが明らかになるという仕掛けは、「社会派」の物語を子どもたちに届ける方法として評価できると思いました。

Y：全198ページ中、首都が北海道にある説明は110ページに出てきます。読者は「なぜ首都が北海道？」と思いつつ、ここまでバンド物語だと思ってくるので、驚きが大きいと思います。

T：ライバル関係にあるバンドがボーカロイドを使っているという設定も、今の子どもたちにとって親しみやすい設定だと思いました。

Y：沙良のグループはボーカル、アコースティックギター、ベース、ドラムという構成で、生の音楽のあたたかさを伝えようとしています。

T：著者は『石を抱くエイリアン』（偕成社、2014）で東日本大震災との遭遇を描く一方、ボーカロイドの初音ミクの楽曲「歌に形はないけれど」を基にした同タイトルの小説（ポプラ社、2014）を手掛けています。今作は両者が一体化されたような作品だと感じました。

Y：そういう意味では、沙良が「あたしでいいのかな」「自信がない」と考えていたのが、バンド活動を通して「自分は自分」「自分らしく」と考えられるようになる過程を描いている点も濱野さんの作品に共通していると思いました。現代の典型的な少女像を描いて、その少女たちにエールを送っているのです。

T：「社会派」にはもう一つの意味も込められています。沙良は、発表会で母が学生の頃に流行った歌を演奏することになりますが、児童センターの指導員が反対します。それは、大災害後の自粛ムードが支配的な社会で、ラヴソングが曲解されてネットで叩かれ、「なんとなく」歌われなくなったという経緯があったからです。

Y：表現の自由やネット社会の怖さ、雰囲気世論を作ってしまう危うさなどが読み取れます。そして、沙良たちがその歌を演奏することで雰囲気に流されず、自分たちで考え、判断することの大切さを伝えようとしています。

T：欲を言えば、歌を演奏するまでの葛藤をもう少し読みたかったなと思います。

Y：私も、震災と火山で首都が移るほどの原発事故という設定の割には、登

場人物の生命や社会に対する危機感がやや欠けているかなと思う点がありました。このシリーズは人や社会の多様性を描いた「ノベルフリーク」というシリーズの一冊です。今後、どんな作品がラインナップするか楽しみにしています。

* 今回のゲストは神戸大学准教授の目黒強さん（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第12回「毒もみのすきな署長さん」

「悪」をめざす賢治

くさて署長さんは縄られて、裁判にかかり死刑ということにきました。いよいよ大きな曲った刀で、首を落とされるとき、署長さんは笑って云いました。

「ああ、面白かった。おれはもう、毒もみのことときたら、全く夢中なんだ。いよいよこんどは、地獄で毒もみをやるかな。」

みんなはすっかり感服しました。>

「プハラ」を舞台とする、警察署長の物語です。

私は、「よだかの星」（本メルマガ NO. 64 第4回参照）や「かしわばやしの夜」（同 NO. 66 第6回参照）に「過剰さ」を積み上げていく力を読みとってきました。この「毒もみのすきな署長さん」にも、やはり、過剰な力が動いているのを感じます。ただ、その力の向かうところは、「よだかの星」とも「かしわばやしの夜」とも違います。

山椒の皮と木灰をまぜたものを沼の水の中でもみ出すと、魚たちが白い腹を上にして浮かび上がる。それが毒もみです。毒もみは禁止されていて、それを取り締まるのは、警察の一番大事な仕事でした。ところが、カワウソのような顔をした新任の警察署長は、その毒もみが好きでたまらないのです。現在は刊行されていない、角川文庫版の『ビジテリアン大祭』の巻末で、中沢新一が「この漁法には、独特な魔力があって、……」と解説していますが、署長さんも、魚が死んで浮かび上がるさまに大きな快樂を得ていたのでしょうか。

警察署長がみずから毒もみを繰り返していたことに気がついたのは、町の子どもたちでした。町長に問いつめられた署長さんは、「そいつは大へんだ。僕の名誉にも関係します。早速犯人をつかまえます。」「実は毒もみは私ですがね。」と言うのです。物語のなかで「悪」の快樂が肯定され、私たち読者も、ふしぎな喜びを味わいます。

宮沢賢治を善意の「聖者」とする考え方は、いまだに存在すると思いますが、「毒もみのすきな署長さん」は、賢治の世界の深い奥行きを見せてくれます。

（馬車別当）

（本文の引用は、宮川健郎編集『名作童話 宮沢賢治 20 選』春陽堂書店によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 72

その10 学校でのおはなし会（4）勉強会

前は、おはなし会の事前に行う打ち合わせ会について書きましたが、それとは別に定期的な勉強会を持つことをおすすめします。これは、グループの活動をより充実させるために、少し広い視野で必要なことをみんなで勉強することを言います。

打ち合わせ会と別に行っても、同じ日に別途時間をとっていいと思いますが、年間で計画を立て、テーマを持つようにします。例えば、毎回1人の作家について担当を決めて調べ、発表する。発表者以外はその作家の本を読んできるという方法もありますし、1冊課題本を決めてその本を丁寧に読む、児童文学関係の理論書を1章ずつ読むなどの方法も考えられます。話し合うのみでなく、同じおはなしを複数の人に語ってもらって語り方について勉強したり、同じ絵本を複数で読んでみたりすることもできます。「くだもの」「きょうだい」など、同じテーマでみんなが本やおはなしを持ち寄るというのも役立ちます。

また、時には、絵本や児童文学・児童文化の展示会をみんなで見に行ったり、講演会に参加したり、公共図書館の司書に新刊紹介をしてもらうことも考えられます。外部講師を招いての勉強会も、新しい視野で子どもの本を見るのに役立ちます。講師料を用意するのがたいへんですが、図書館と共催で行ったり、地域で呼びかけて参加費を集めたり、子どもゆめ基金などの助成金に応募するなどの工夫が考えられます。

最初は負担に感じるかもしれませんが、勉強会を行うことで、グループ内がより仲良くなり、打ち合わせ会等でも率直な意見が言いやすくなります。また、グループの子ども観、子どもの本観についても考えが深まり、学ぶ楽しさを感じ、これまで以上に子どもの本やおはなしのおもしろさに気づくことができます。

*次号は「その10 学校でのおはなし会（5）」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《4》 行って来ました！

芦屋市立美術博物館で9月4日（日）まで開催されている「一チャペックからチェコ・コミックまで—東欧の絵本大国「チェコ絵本をめぐる旅」」に行ってきました。作家15名による絵本原画やリトグラフ、絵コンテなど約150点が4章に分けて展示されています。

はじめのフロアは「第1章 チェコ絵本の源流」「第2章 国境を越えて」の展示です。ヨゼフ・チャペックの『長い長いお医者さんの話』の「郵便屋さんの話」の原画は、温かさを感じるシンプルな線画で、修正の跡も見えて親しみを覚えました。グレアムの『たのしい川辺』のチェコ版の挿絵の原画はクレヨンで塗られた線画で、ヒキガエルのとぼけたような表情がユーモラス

です。クヴィエタ・パツオフスカのポスターは、黒、白、赤色だけで描かれていて迫力がありません。

次のフロアは「第3章 現代のチェコ絵本」「第4章 チェコ絵本と日本」で、現在活躍している作家が紹介されています。ペトウル・ニクルの『アトラス・サルタ』という作品は、動物と植物が合体したような不思議な絵でおもしろいです。近年は絵本の中にコマ割りなどマンガの手法が取り入れられているようで、本当の森の中でミニチュアの人形で撮影された写真マンガ絵本や、200ページもあるマンガのような絵本が紹介されていました。プラハ在住の日本人画家、出久根育の昨年チェコで出版された『とらわれた銀の太陽』という作品の挿絵は、温かい色あいで子どもたちが描かれています。遊んでいたコンピュータゲームの世界に入り込んでしまうSFだとあらすじがついていましたが、どんなお話か読んでみたいと思いました。

どの章もケースの中でチェコ語の原書が紹介されていましたが、その中のいくつかは手に取って読むことができるコーナーで見ることができ、購入できるものもありました。ブックカバーやマスキングテープや雑貨などもあり、そちらも楽しみました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 特別展「オルゴールで楽しむ“鏡の国のアリス”」

前期：レトロ・ファンタジーへの旅

イラストレーター0313（ぜろさんいちさん）が、描き下ろしたイラストとオルゴール等の自動演奏楽器の生演奏で、「鏡の国のアリス」の物語を上演

会場：六甲オルゴールミュージアム（神戸市六甲山上）

会期：開催中～9月13日（火）午前10時～午後5時 休館日あり

入館料：有料

● 2016 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 <特別展示>

子どもの本専門の国際見本市ボローニャ・ブックフェアでは、絵本原画コンクールが行われており、18ヶ国77作家の入選作を展覧するとともに、開催50回を記念して、同展の歴史を年譜と資料、原画で振り返ります。

会場：西宮市大谷記念美術館（西宮市中浜町）

会期：開催中～9月25日（日）午前10時～午後5時

金曜は午後7時まで、水曜休館

入館料：有料

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『バンドガール!』

を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.72プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は9月12日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— — — — —

社会現象ともいわれるゲームのおかげで、「歩きスマホ」は「ながらスマホ」へと“進化”した。「歩き—」にも迷惑しているが、「ながら—」となると、いつ車が突進してくるやも知れず、危険極まりない。関連する事件や事故、トラブルを誘発せず、防止するのが企業の「社会的責任」だろう…。その昔、深夜ラジオを聞きながら勉強する「ながら族」が流行ったが、それでも親に「勉強が身に付かない」と叱られたものだ…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
